

一貫教育校の広場

幼稚園

横浜初等部
(2013年開校予定)

普通部

中等部

湘南藤沢
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
(高等部)

第13回修善寺「幼稚園の杜」植林

●幼稚園 事務長

おたみちお
太田道夫

1999（平成11）年、伊豆修善寺に

塾員の井草實氏いぐさみねが山林用地を提供してくださり、ここに幼稚園生がクヌギ・コナラなどの植林を行い、「幼稚園の杜」として育てていくことになりました。修善寺は1944（昭和19）年に幼稚園生が疎開したところで、幼稚園にとっては特別な場所です。修善寺で生まれ育った井草氏が塾高に入学した時、級友に修善寺の疎開学園の経験者が2名いたそうです。その後、井草氏が沼津三田会の世話人をしていて、長島常任理事（当時）から学校林への協力依頼があり、それが現在全国に16カ所ある義塾の学校林（合計約163ha、東京ドーム約35個分）のひとつとしての「幼稚園の杜」（約1.2ha）実現につながりました。

地元の田方森林組合の皆さん、全国の林業三田会・福澤育林友の会の皆さんの協力のもと、毎年3月に幼稚園生は植林活動を行っています。今年は3月10日に清家塾長、笠原常任理事、長谷山常任理事、加藤幼稚園舎長と4・5年生中心の希望者42名の児童らが参加し行われました。植林した場所からは、疎開学園の地、修善寺の街並みが見渡せ、晴れていれば富

士山を望めます。

近年、修善寺界隈のこの山林にもシカが増えており、シカの食害と苗の成長に頭を悩ませていました。つまり、苗への日照を確保するためカヤの下草刈りをせねばならず、そうすると苗まわりの視界がひらけシカが安心して苗を食べにやってくるようになってしまふこと、他方、カヤが茂っている日照が不足し苗の成長が遅くなるものの、カヤで視界が遮られることをきらうシカを遠ざけることができるのです。この二律背反を解消するため「ヘキサチューブ」（ツリーシェルター）というプラスチック製のチューブを一昨年から導入し、効果があがってきています。児童たちは、植えた苗にかぶせたヘキサチューブに自分の名前をマジックで書き、大きく育つことを願いました。

今回は、植林のほかに、第1回植林地の見学、シイタケの菌植え（コマ打ち）を体験しました。将来的には、「幼稚園の杜」に育った樹木の伐採、シイタケのホダ木作りなども考えています。ここまでできれば、植林するだけでなく、「持続可能な」里山のモデルを構築することも可能となるでしょう。



左/植林地での集合写真 右/シイタケの菌植え